

06年度実績
の価
局評
整備
総合

「逆転落札」大幅増の108件

件数、金額とも9割超す

東北地方整備局は、2006年度の総合評価落札方式実績をまとめた。件数は、昨年6月から原則すべての工事に同方式を適用したこともあり、前年度と比べ約6倍の1551件となった。発注工事に占める割合は件数ベースで92・8%、金額ベースでは97・3%と、ともに9割を超えた。最低価格応札者以外が落札する「逆転落札」も前年度の4件から108件と大幅に増加した。07年度は引き続きすべての工事に同方式を適用するほか、WTO（世界貿易機関）対象の一般競争入札で高度技術提案型3件の発注を予定している。

今年度は高度型3件適用

06年度実績は、11日に仙台市内で開かれた同整備局総合評価委員会（委員長・澤本正樹東北大学教授）で写真1で報告された。



発注方式別の内訳は、

WTO対象の一般競争入札が20件、WTO以外の一般競争入札は1419件、工事希望型競争入札は112件だった。工種別では、一般土木が605件で全体の約4割を占め、維持修繕220件、舗装187件、通信設備109件、建築物11件など続く。また、技術提案による加算点が最も高い企業が落札したケースは、全体の約4割に当たる594件で、うち「逆転落札」は56件（9・4%）発生した。

一方、加算点が2位以下での落札は957件。「逆転落札」は52件（5・4%）と、加算点1位の落札に比べて発生率はほぼ半分にとどまっている。全体の「逆転落札」発生率は7・0%で、前年度（1・6%）に比べて4倍以上になった。この日の委員会では、今年度の入札契約制度についても報告があった。低価格入札対策の一環として試行実施している入札ポンドは、WTO対象一般競争入札すべてと、宮城、岩手両県内の直轄工事（岩手は7月以降）のうち予定価格2億円以上の工事に適用する。また、一般土木とプレストレスト・コンクリート、鋼構、建築工事を低入札で受注して施工している企業については、過去3年以内の管内施工実績と工事成績平均が74点以上でなければ、入札参加を認めない。

同整備局発注工事における06年度の低価格入札は160件で、全体の10%だった。07年度第1四半期は5・8%にとどまっている。このほか、第2四半期以降に発注される高度技術提案型3件と標準型20件の評価項目を審議、了承した。

整備局側は、新たな評価項目として、新技術活用と継続教育（CPD）の取り組みを追加したことを説明。新技術活用の配点は、「有用な新技術」が2点、「NETIS（新技術情報提供システム）技術」は1点。継続教育は、推奨単位以上取得の証明がある場合が2点、推奨単位の3分の2以上取得の場合は1点それぞれ加算される。また、企業の社会性・信頼性の評価で、これまで災害協定に基づく活動実績がある場合と、過去に災害の発生はないが協定を結んでいる場合とを2点としていたが、活動実績があった場合は4点とする。